



日本医師会副会長
中川 俊男氏
Nakagawa Toshio



前厚生労働副大臣
大塚 耕平氏
Otsuka Kohei



自由民主党衆議院議員
鴨下 一郎氏
Kamoshita Ichiro

新春 特別座談会

社会保障と税の 一体改革を語る

——まず初めに、今なぜ社会保障と税の一体改革が必要なのかを、2011年6月に「社会保障・税一体改革成案」を中心になってまとめられた大塚先生に伺いたいと思います。

大塚 基本的に二つの理由があります。少子高齢社会になり、将来の日本の財政収支の見通しが非常に厳しくなっていることが1点。2点目は、給付と負担のバランスが崩れ始めていることです。この2点に対応するため、社会保障の中身とその財源の一部である税について、中長期的な方向性を国民の皆さんにご理解いただいて決定する必要があります。

鴨下 基本的な認識は私も変わりません。年金、医療、介護を含めた社会保障予算が100兆円を超え、年間約1兆円ずつの自然増がある中で、誰がどう負担していくかといえば、やはり税を考えざるを得ない。そういう状況に至っていることは確かです。ただ、今の社会保障と税の一体改革の進め方には異論があります。

中川 現政権の最近の議論は、以前より現実的になったように思いますが、社会保障だけを取り上げて税との一体改革を進めることには違和感を覚えます。

——改革が必要という認識は皆さんに共通していると思いますが、どこに力点を置くべきとお考えですか。

大塚 医療、介護、年金そして雇用という社会保障の4本柱について、時代の要請に合った形で必要な点を修正

民主党政権が2011年内の取りまとめを目指す「社会保障・税一体改革素案」は、今後の医療・介護経営に大きな影響を与えることが確実だ。その原案である「社会保障・税一体改革成案」づくりの中心となった前厚生労働副大臣の大塚耕平氏と、医療政策に造詣の深い元環境大臣の鴨下一郎氏、論客として知られる日本医師会副会長の中川俊男氏の3人が、一体改革について徹底的に語り合った。

(司会は本誌編集委員・庄子 育子)

写真●秋元 忍

する。それぞれの給付と負担の調整により、全体として今までよりも給付を若干抑制気味にしつつ、もう少し負担をしていただく形で、トータルとして社会保障の持続可能性を高めるということです。

例えば医療では、個人で負担しきれない高額な医療費が必要となる大きなリスクに対しては、医療保険制度で手厚く対応する。一方で負担が低くて済む小さなリスクについては、そういうリスクに遭遇しないよう予防していただく。一体改革成案は、そうした部分に力点を置いています。

——鴨下先生は、一体改革の進め方に異論があるとおっしゃいましたが。

鴨下 社会保障と税の一体改革は、2011年6月に「成案」という形で内閣に報告されました。ところが、年末になってまた民主党内から負担増に対する異論が出て、政府の姿勢がぶれている。政府の責任において方向性を示してくれないと、我々としても意見を言うことができず、はなはだ当惑しているわけです。

野田佳彦総理は2011年内に「素案」をまとめるとしています。そもそも成案だったものが何で素案になってしまうのか。しかも、素案を大綱にするには野党の協力が必要だということではなく、社会保障と税の一体改革について民主党政権あるいは野田内閣が「かくあるべし」と国民にまず訴えて、それに異論を持つ我々と議論をするというプロセスが必要です。内容以前に、その決め方に極めて違和感があります。

中川 一体改革成案は、閣議決定はおろか閣議了解でもなく、閣議報告されたものにすぎません。にもかかわらず、それが既定路線となってしまっ

ている。政策決定のプロセスとしては非常に問題が多いと思います。

大塚 おっしゃるように一体改革成案は、閣議報告された関係省庁間の案であり、まだ政治プロセスを踏んでいないわけです。与党の了解を取らないことには、野党の皆さんと協議するために提示することもできません。成案か素案かという呼び方はともかく、今まさにその政治プロセスにかけている段階です。私は今、与党側の立場です。その案をチューニングした上で、政治プロセスの次の段階として野党の皆さんにも議論に参加していただき、合意と実行につなげたいと考えています。

持続可能な社会保障制度をどう作る 消費税の目的税化は是か非か

——次に、一体改革成案の中身について伺いたいと思います。中川先生からお願いします。

中川 日本の医療保険制度は世界で

もトップクラスだと評価されてきたわけですから、問題はそれをどう持続可能なものにしていくかです。しかし、いったいどうしたら持続可能な制度に

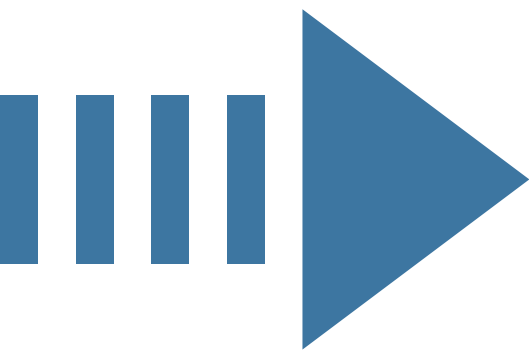
日本の財政収支の見通しは厳しく、
給付と負担のバランスも崩れ始めている

大塚 耕平氏

前厚生労働副大臣

1959年愛知県生まれ。83年早稲田大学政治経済学部卒業、同年日本銀行入行。日銀在職中に早稲田大学大学院博士課程修了。2001年参議院議員初当選、現在2期目。2009年内閣府副大臣。2011年1月から9月まで厚生労働副大臣を務めた。







続きは
『日経ヘルスケア』本誌にて
ご覧ください。

▼ご購入お申し込みは…

●インターネットでのお申し込みはこちらから

●電話でのお申し込みはこちらから

 0120-21-0546 または  03-5696-6000

(年中無休 9:00～22:00、日経BP社読者サービスセンター)